

## 第4章

自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」

## 第1節 シビックプライドの醸成

### 【めざす姿】

市民が八幡市の自然や歴史、文化芸術に触れる機会を通じて、生活の潤いと市への愛着につながっています。

### 【施策体系】

|                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| シビックプライド<br>の醸成 | ①文化芸術活動の振興      |
|                 | ②お茶のある幸せの風景の創出  |
|                 | ③豊かな自然・歴史との触れ合い |

### 【施策の背景】

八幡市には、脈々と引き継がれてきた歴史文化や豊かな自然環境、風景等の魅力があります。このような魅力を守り続けていくためには、協働の観点から行政と多様な主体とが連携し、市民自らが主体的に魅力を維持していくことが求められます。市民が主体的に活動するためには、住むまちに対する愛着や誇りである「シビックプライド」を持つことが重要です。

こういったシビックプライドを八幡市民の中に育てていくことを視野に入れながら、文化芸術活動の振興や八幡の豊かな自然・歴史に触れる機会をつくるとともに、松花堂昭乗などの文化人により発信されてきた「茶文化」に親しむことのできる取組を進めていく必要があります。

## ①文化芸術活動の振興

### 【現状と課題】

- 伝統行事である「太鼓まつり」の開催支援や「はちまんいち」事業への助成などを行った。
- 八幡市文化協会への活動助成や市民文化祭の開催により、市民の文化活動への参加機会の確保と文化活動を通じた交流を図ることができたが、幅広い年代層が参加できる事業展開が必要。
- 文化施設の老朽化に伴う補修や市民ニーズに応じた事業の展開が課題。
- 史跡となった石清水八幡宮境内、名勝となった松花堂及び書院庭園など市内文化財の更なる保存と活用が課題。
- 八幡市文化センター、松花堂庭園及び美術館を中心に、優れた芸術と交流の場の設定拡充が課題。
- 文化芸術を担う人材育成に向けて、指導者の世代交代が課題。
- 山城地域における文化交流は行われているが、国際交流が行われていないことが課題。
- 今後も地域性、伝統性、周囲の自然環境に配慮し、文化センター等の施設整備を行うことが必要。

### （関連情報・データ等）

- ・ 市民文化祭開催参加者数 ⑳舞台 787 人・作品 469 人→㉑舞台 728 人・作品 465 人
- ・ 文化センター利用者数 ㉒165,208 人→㉑182,828 人
- ・ ふるさと学習館ボランティア人数 ㉓（事業開始年度）7 人→㉑ 4 人
- ・ ふるさと学習館来館者数 ㉒ 778 人→㉑ 1,036 人
- ・ 山城のタカラフェスティバル参加回数 ㉒ 年 1 回→㉑ 年 1 回
- ・ 太鼓まつり入込客数 ㉒ 3,000 人→㉑ 3,500 人
- ・ 埋蔵文化財包蔵地における調査等実施件数 ㉒43 件→㉑48 件
- ・ 文化財指定件数（国指定 ㉒25 件→㉑ 27 件 府指定 ㉒15 件→㉑ 15 件 市指定 ㉒17 件→㉑ 17 件 国宝指定 ㉑ 1 件）

### 【主な取組と方向性】

- 文化芸術に接する機会の拡充と交流の促進
  - 幅広い年代層が歴史や文化芸術に触れる機会の創出と市民ニーズに応じた事業の展開
  - 文化芸術を担う人材の育成
  - 市文化センターや松花堂庭園・美術館を中心に、文化芸術を通じた交流の促進
  - 山城地域の文化交流イベントの継続及び国際交流への展開
- 市民による文化芸術活動の促進
  - 伝統行事をはじめ市民が主体的に行う文化芸術活動の促進
- 文化遺産の保存及び活用
  - 国宝石清水八幡宮をはじめとする市内文化財の保存及びさらなる活用

**【施策の進捗をはかる指標】**

| 指標（案の例示）    | 現状  | 目標値 |     |
|-------------|-----|-----|-----|
|             | H29 | H34 | H39 |
| 市民文化祭開催参加者数 |     |     |     |
| 文化センター利用者数  |     |     |     |
|             |     |     |     |
|             |     |     |     |
|             |     |     |     |

## ②お茶のある幸せの風景の創出

### 【現状と課題】

- 八幡市では、松花堂昭乗などの文化人により茶の湯の文化が発信されてきた。
- 流れ橋周辺に広がる浜茶の景観が、日本遺産「日本茶 800 年の歴史散歩」に認定（H27）
- 平成 29 年度は京都府が推進している「お茶の京都」のターゲットイヤーであり、京都府南部市町村が連携した「お茶」に関する取組が進んでいく予定。
- お茶の郷づくり協議会参画（H27～）、お茶の京都DMO設立推進協議会参画（H28～）。

### （関連情報・データ等）

- ・八幡産茶葉使用抹茶「松花堂」等を広域観光PR紙で紹介（H23・25・26年度）。

### 【主な取組と方向性】

- お茶に親しむ機会の創出
  - 茶会など、市民や観光客が気軽に茶文化を体験できるイベント等の実施
- 茶文化の発信
  - 石清水八幡宮や松花堂庭園の茶室を拠点とした茶文化の発信

### 【施策の進捗をはかる指標】

| 指標（案の例示）    | 現状  | 目標値 |     |
|-------------|-----|-----|-----|
|             | H29 | H34 | H39 |
| 〇〇イベント参加者数  |     |     |     |
| 松花堂庭園茶室利用者数 |     |     |     |

### ③豊かな自然・歴史との触れ合い

#### 【現状と課題】

- みどりのつどい等のイベントを通じ、広く市民の方々に緑化推進の意識の高揚を図った。
- 八幡すみどりの条例に基づき、ふるさとの森、ふるさとの木を指定。所有者と保全協定を結び緑地を保存。
- 水と緑によるネットワークを形成するための緑化整備や河川・緑地空間を活用した自転車・歩行者道の整備、休憩施設の整備などのやすらぎと潤いの回廊づくりに取り組んでいる。
- 公園等において、樹木が増えすぎている箇所の間引き等を行うことにより、その緑地の樹木を適正な本数へと整理していくことが課題。
- 河川の緑化未整備部分は河川敷及び隣接する土地を調査し境界を確定した後に整備する必要があるが、土地調査や境界確定に時間を要しており整備が進まない。
- スポーツ利用促進を目的とした一部公園の芝生化が実現し、日常管理を地元団体と協力し継続。ただし、地元団体の高齢化等により公園管理委託が進んでいない。
- 老朽化が進む農業用水路や農道など、施設の長寿命化のための補修・更新等を行う地域共同活動に対する支援を実施。
- 歴史街道に指定された市道土井南山2号線について、景観に配慮した工法や製品を利用した整備工事を実施。
- 八幡市地区計画区域建築物制限条例に基づく指導を行う上で、意匠に関する市の基準の検討が重要。
- 景観保全に関して、現在各部門で組織している様々な検討委員会との関係や歴史街道計画の今後の取組について整理が必要。
- 東高野街道の八幡城ノ内地内では、周辺の景観に配慮した舗装工事を実施し、安全で安心して歩けるよう維持管理に努める。

#### （関連情報・データ等）

- ・農業ボランティアによる収穫体験（市民対象） ㉓ 4回→㉗ 4回
- ・みどりのつどい参加者数 ㉓ 208人→㉗ 228人
- ・みどりの約束（区域） ㉓ 797,054㎡→㉗ 796,625㎡（樹木） ㉓ 30本→㉗ 31本
- ・地元団体への公園管理委託率 ㉓ 79.6%→㉗ 77.5%
- ・公園樹木の剪定等による管理公園数 ㉓ 190箇所→㉗ 192箇所
- ・大谷川の整備済延長（累計） ㉓ 1.40km→㉗ 1.40km
- ・防賀川の整備済延長（累計） ㉓ 0.55km→㉗ 0.55km
- ・八幡市地区計画区域建築物制限条例に基づく指導 区域内行為届出件数 ㉓31件→㉗21件
- ・近畿地方都市美協議会に参加し各種景観施策に関する研修等出席 ㉓ 2回→㉗ 6回
- ・修景・整備工事の実施件数（累計） ㉓ 1件→㉗ 2件
- ・八幡市歴史街道計画整備検討委員会開催 ㉖ 1回
- ・歴史街道計画に基づく整備済み延長（累計） ㉓ 2.5km→㉗ 2.5km

## 【主な取組と方向性】

- 自然と触れ合うきっかけづくり
  - 収穫体験などの自然体験事業を促進し、自然と触れ合う機会の充実を図る
  - 水と緑によるネットワークを形成するためのやすらぎと潤いの回廊づくりの推進
- 自然景観の保全
  - 男山の森林や東部地域の田園風景、茶畑などの自然景観の保全
- 歴史景観の保全
  - 【検討中】

## 【施策の進捗をはかる指標】

| 指標（案の例示）    | 現状  | 目標値 |     |
|-------------|-----|-----|-----|
|             | H29 | H34 | H39 |
| みどりのつどい参加者数 |     |     |     |
|             |     |     |     |
|             |     |     |     |

## 第2節 幸せと出逢う観光まちづくり

### [めざす姿]

多くの人が八幡市を訪れ、その豊かな自然と歴史・文化芸術に出逢い、楽しめる環境が整っています。

### [施策体系]

|                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| 幸せと出逢う<br>観光まちづくり | ①「観幸のまち やわた」ブランドの構築         |
|                   | ②自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進 |

### [施策の背景]

全国的に外国人観光客が増加傾向にあるなか、石清水八幡宮が国宝に指定されるなど、近年、八幡市に多くの観光客が訪れる上での好条件がそろいつつあります。このような状況においては、市の魅力的な観光資源である歴史文化や豊かな自然環境を活用した観光施策の充実を図り、観光まちづくりを加速していくことが求められます。

そのためには、八幡市の存在を認知してもらうためのブランド構築や周遊や滞在等を通して市への交流を促進するための観光振興施策の推進、地元住民だけでなく来訪者も楽しみ消費してもらう場をつくるための「おもてなし環境」の整備に取り組んでいく必要があります。

また、八幡市のブランドや観光施策を全国的・世界的に認知してもらうためには、これまで以上のプロモーションの工夫と充実が不可欠です。

## ①「観幸のまち やわた」ブランドの構築

### 【現状と課題】

- 農産物直売所を四季彩館に設置し、地場産農産物の販売を促進。
- 市内量販店（イズミヤ・ミスギヤ）等において市内農産物を販売。
- 商工会に八幡ブランド商品普及事業を助成し、「京・やわたブランド」として商品開発及び販売の実施。
- 市内小学校等への地場産農産物の利用促進を通じ、食育の推進と食文化の継承を図る必要がある。
- 地産地消の取組と食育など健康の取組との連携が必要。
- 石清水八幡宮の国宝指定を受け、平成 27 年度に P R 用の懸垂幕、垂れ幕の設置、クリアファイルの作成、パンフレット日本語版・英語版の作成を行った。
- 広報紙による P R では、石清水八幡宮の国史跡指定を受け、「八幡市観光マップ 史跡めぐり」の作成（H24）、その他「まるごと観光イラストマップ」（H25）や背割堤パンフレットを（H25）作成。
- 3 農園を HP や広域観光 PR 紙に掲載し、ブランド農産品の認知拡大を図った。
- 市ホームページにて各観光施設に関する記事を作成・掲載。
- N P O 法人映像産業振興機構（V I P O）京都事務所、京都市メディア支援センター等に松花堂などの観光地点が登録され、CM、ドラマ等の撮影場所として P R。
- 観光情報の発信は、市と観光協会の役割分担を明確にすることが必要。
- 観光協会や駅前観光案内所の体制強化などを実施。

### （関連情報・データ等）

- ・ 農産物直売所来店客数 ②⑥22,266 人→②⑦56,390 人
- ・ 果物狩農園の PR（3 農園の入込客数） ②⑥ 15,729 人→②⑦ 17,277 人
- ・ 広域観光 PR 紙発行部数 ②③46,000 部→②⑦46,000 部
- ・ 石清水八幡宮パンフレット作成 ②④ 15,000 部 ②⑦ 15,000 部
- ・ 観光ガイドマップ作成（イラストマップ） ②③ 40,000 部→②⑤ 350,000 部
- ・ 背割堤パンフレット作成 ②⑤ 300,000 部

### 【主な取組と方向性】

- ブランドの構築
  - 「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」に基づき、国宝石清水八幡宮や茶文化を生かした「八幡市」としての地域ブランドを構築
  - 地場農産物の充実及び「安心・安全・新鮮」の P R による販売促進
  - 商工会等への八幡ブランド商品普及事業助成
- プロモーションの推進
  - 多様な情報発信手段の検討
  - 広域広報紙など既存の取組の強化
  - 観光協会をはじめ、多様な情報発信機能を有する関係機関等との連携を強化

- 観光まちづくりを進める体制づくり
  - 関係機関との連携推進による既存の体制強化と広域連携の推進
  - 新たな取組に向けた、市民・事業者・行政等の検討の場の創出

**【施策の進捗をはかる指標】**

| 指標（案の例示） | 現状  | 目標値 |     |
|----------|-----|-----|-----|
|          | H29 | H34 | H39 |
| まちの魅力度   |     |     |     |
| 商品開発数    |     |     |     |
| 観光意欲度    |     |     |     |
|          |     |     |     |

## ②自然と歴史と文化が織りなす「出逢いの物語」観光の推進

### 【現状と課題】

- 市内移動手段として、八幡市駅前、松花堂、四季彩館で乗り降りできるレンタサイクル事業を継続。
- 関係機関と連携し、講座や歴史街道ウォーク（H26～）、乙訓八幡歴史ウォークを開催。
- 「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」の策定が進められており、その内容を踏まえて、次期計画ではどのような駅前整備が必要かなど、今後の展開を精査していくことが必要。
- 歴史文化・ゆかりの人物等の観光資源を活かすための「ものがたり観光」の具体化について要検討。
- 案内看板・サインの整備は多言語化対応をどう進めるのか、統一基準を設けるか等、要検討。
- 橋本駅については、次期計画では隣接する枚方市楠葉中之芝区画整理事業地の整備も踏まえ、整備内容及び手法を整理することが必要。
- 次期計画において、(仮称)八幡ジャンクション・インターチェンジ周辺の区画整理事業の進捗計画も踏まえた内容の整理が必要。
- 拠点整備として、魅力あるものとするため、引き続きハード整備や民間施設誘導等の総合計画策定など、ソフト対策も行っていくことが必要。
- 欽明台北地区の一部については、特定大規模小売店舗が立地可能な特例誘導エリアに指定されており、広域的集客を図ることができる商業施設を誘致。

### （関連情報・データ等）

- ・観光入込客数 ㉓1,728千人→㉗1,819千人
- ・観光消費額 ㉓393,082千円→㉗503,981千円
- ・石清水八幡宮入込客数 ㉓1,040千人→㉗1,050千人
- ・ガイド随行案内数・定点案内数 ㉓1,127人・845人→㉗ 1,122人・820人
- ・市街化区域面積 ㉓ 1,032ha→㉘ 1,038ha
- ・案内看板・サイン等設置数 ㉓ 1基→㉗ 1基

### 【主な取組と方向性】

- 石清水八幡宮を生かした交流拠点づくり
  - 八幡市駅周辺の再整備など交流拠点の整備と歴史文化を活かしたプログラムの開発
- 資源を活かした周遊・体験・滞在型の広域観光の推進
  - 市民・NPO・事業者等による観光資源を活かしたイベント、工場見学など体験プログラムの開発・開催促進など、滞在型の観光施策の充実
  - 観光協会や近隣市町など関係機関との連携を強化し、お茶などの文化資源や三川合流域などの景観資源等をつなぐ周遊型の広域観光の取組を推進
- おもてなし環境の整備
  - 交流拠点化に向けたハード整備及びソフト対策の推進
  - 案内看板等の多言語化及び統一基準の策定、観光情報ハウスの運営支援の継続
  - ボランティアガイド等の人材育成

**【施策の進捗をはかる指標】**

| 指標（案の例示）   | 現状  | 目標値 |     |
|------------|-----|-----|-----|
|            | H29 | H34 | H39 |
| 観光客の満足度    |     |     |     |
| 石清水八幡宮入込客数 |     |     |     |
| 観光入込客数     |     |     |     |
| 観光消費額      |     |     |     |